

社會轉型與制度僵固— 日本少子化危機與對策

政大社會系

鄭力軒

低生育率將會是21世紀的人口危機嗎？

2003 PAA會長 S. Philip. Morgan

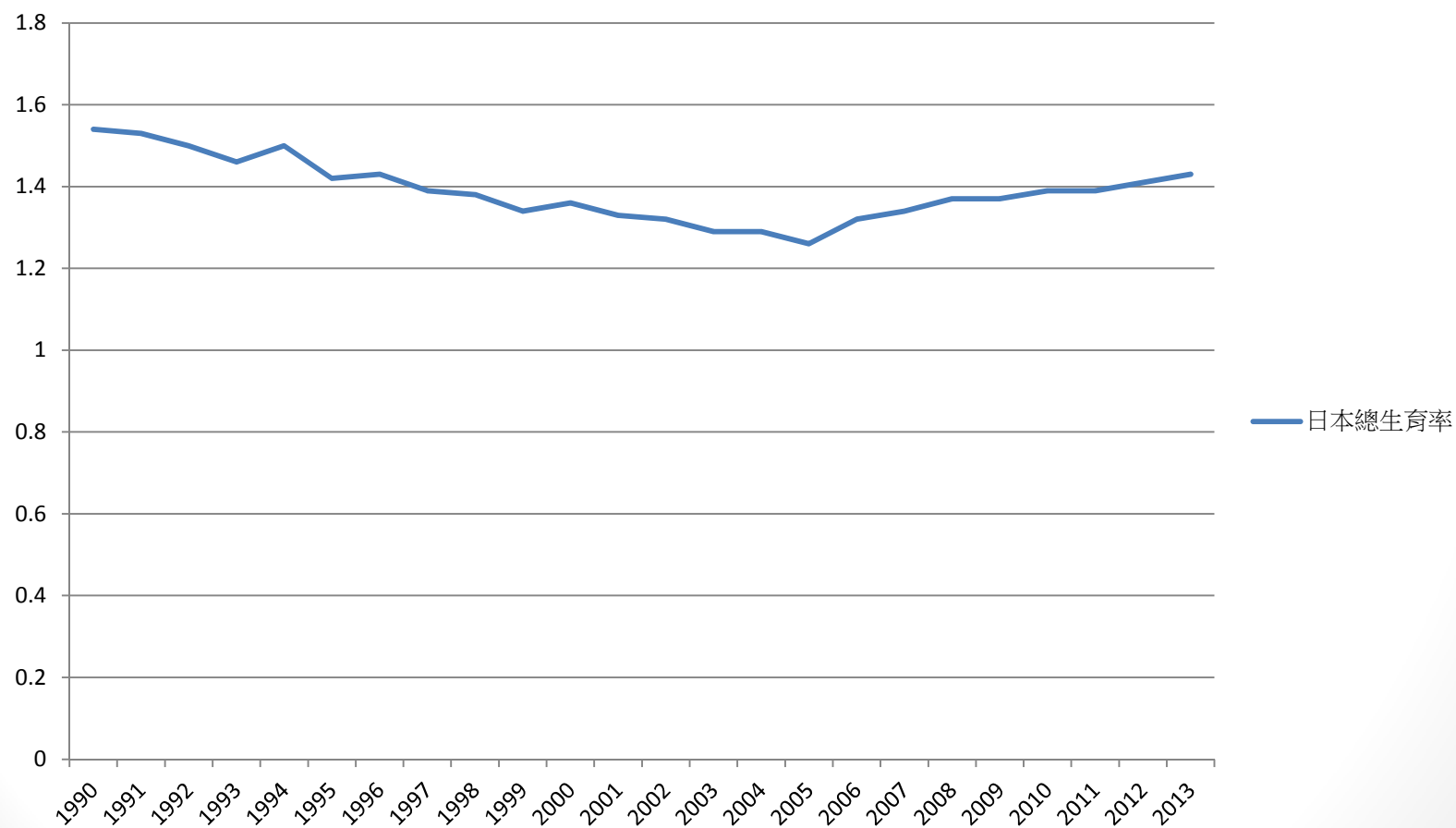


Morgan 的論點

- 1. 全球已有半數人口生活在低於替代水準生育率的國家
- 2. 只有百分之三人口生活在未經人口轉型國家
- 3. 一但人口轉型開始，很少國家生育率不掉到替代水準之下
- 4. 但極低生育率可避免
- 5. 生育率研究從高生育率與低生育率國家差距轉變到低生育國家中的差距

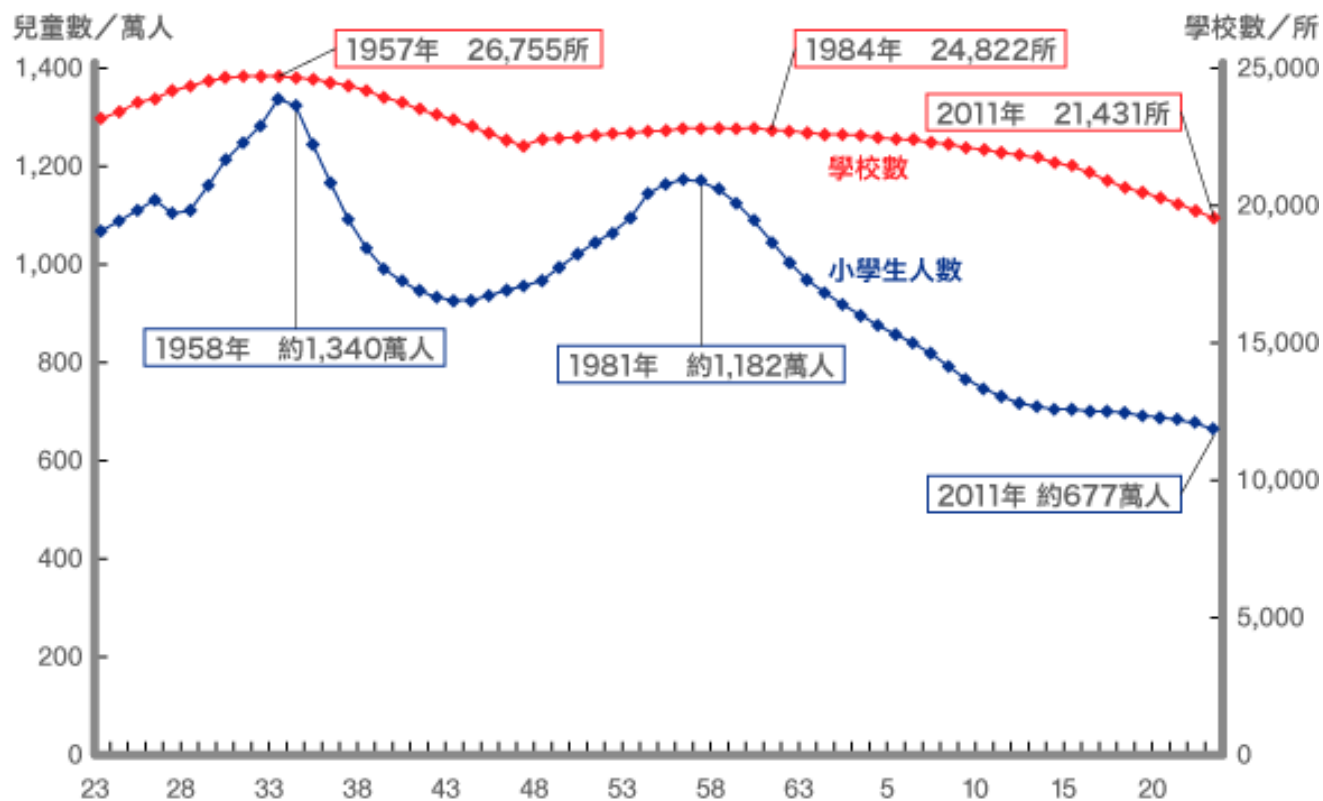
日本總生育率

日本總生育率



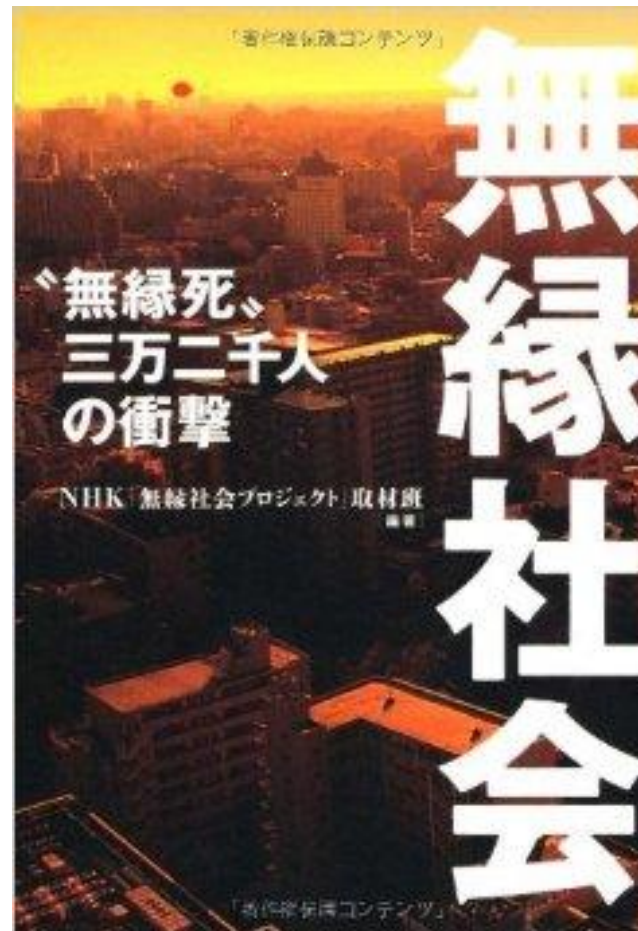
直接的影響

公立小學學生人數及學校數



出處：文部科學省《學校基本調查》

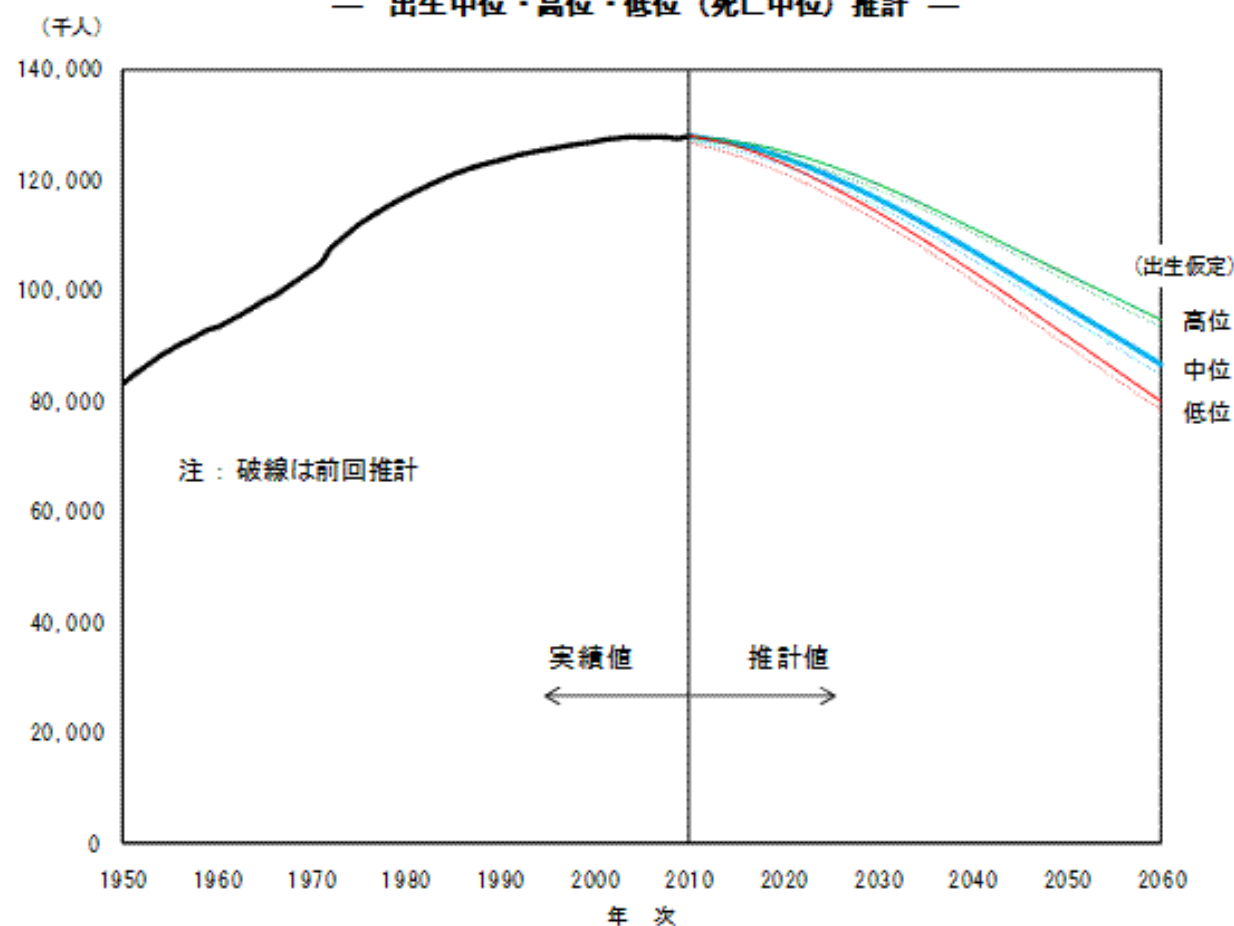
間接地影響



日本人口數推計

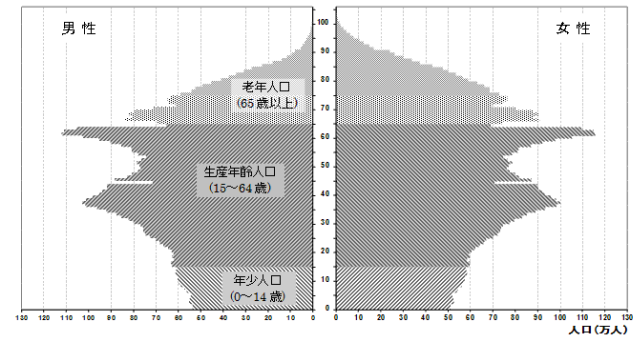
図1-1 総人口の推移

— 出生中位・高位・低位（死亡中位）推計 —

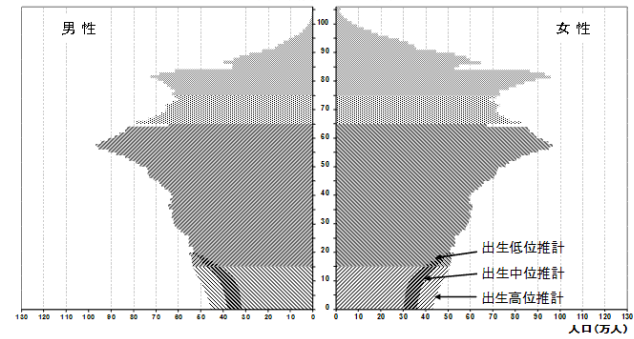


日本人口金字塔

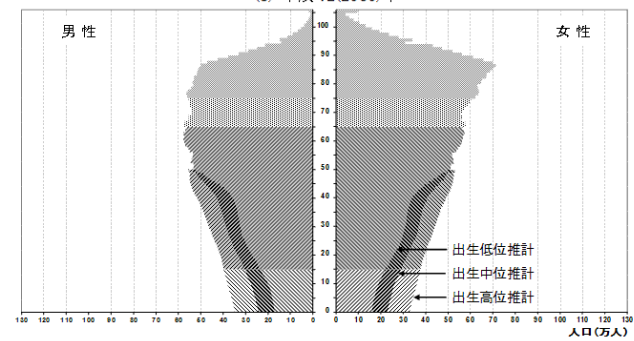
図1-5 人口ピラミッドの変化：出生3仮定（死亡中位）推計
(1) 平成22(2010)年



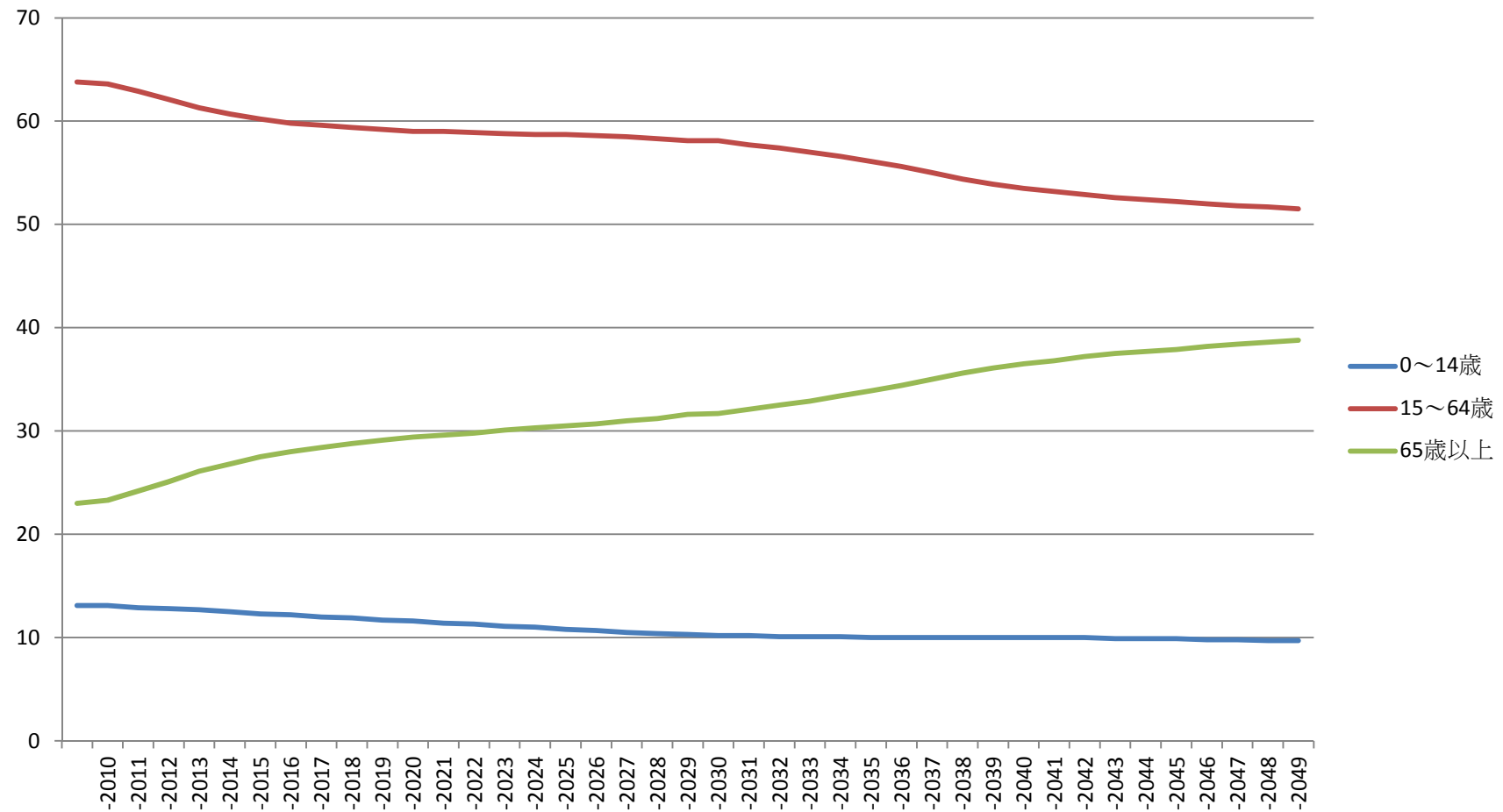
(2) 平成42(2030)年



(3) 平成72(2060)年

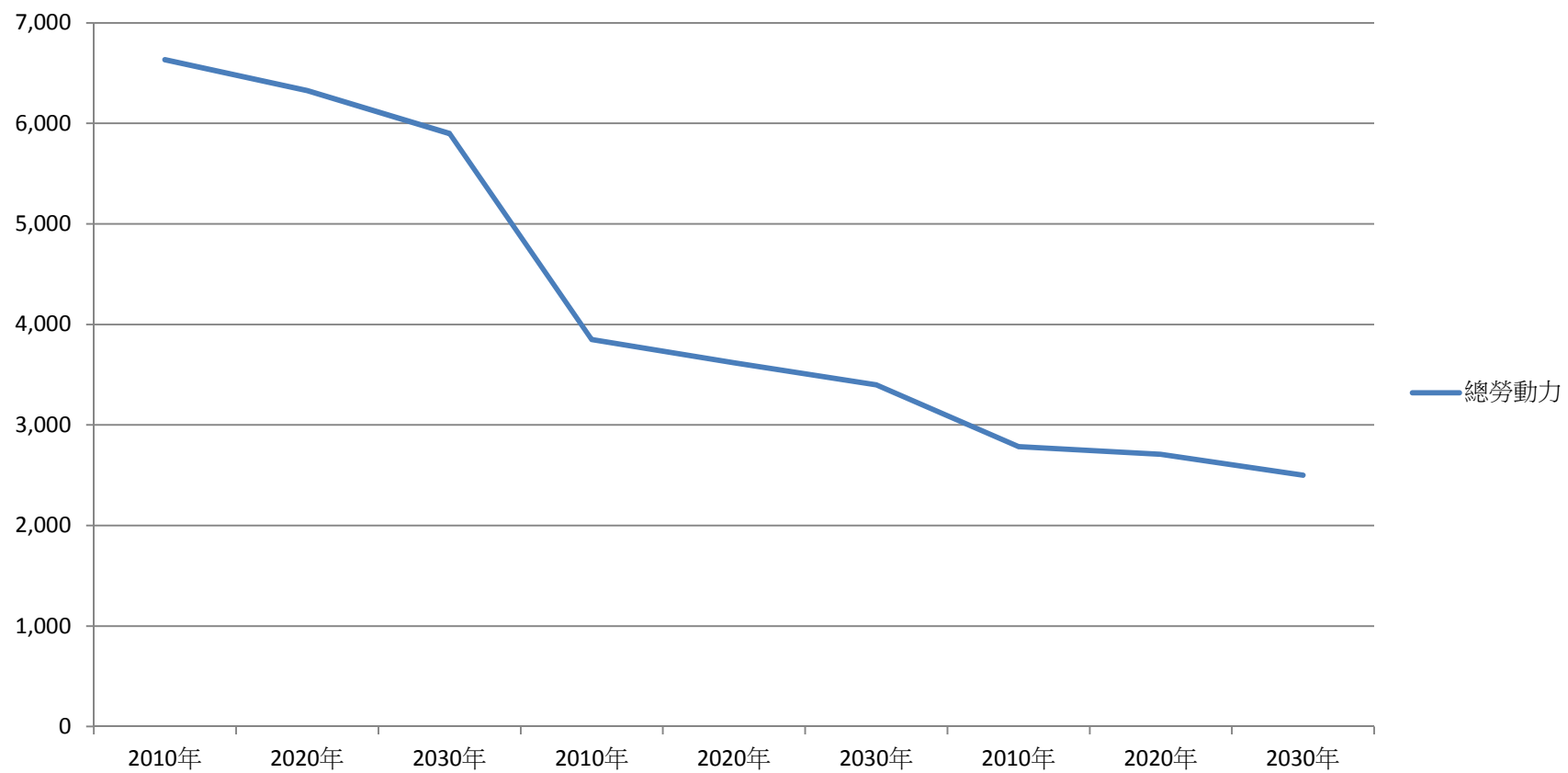


推計日本人口年齢比例

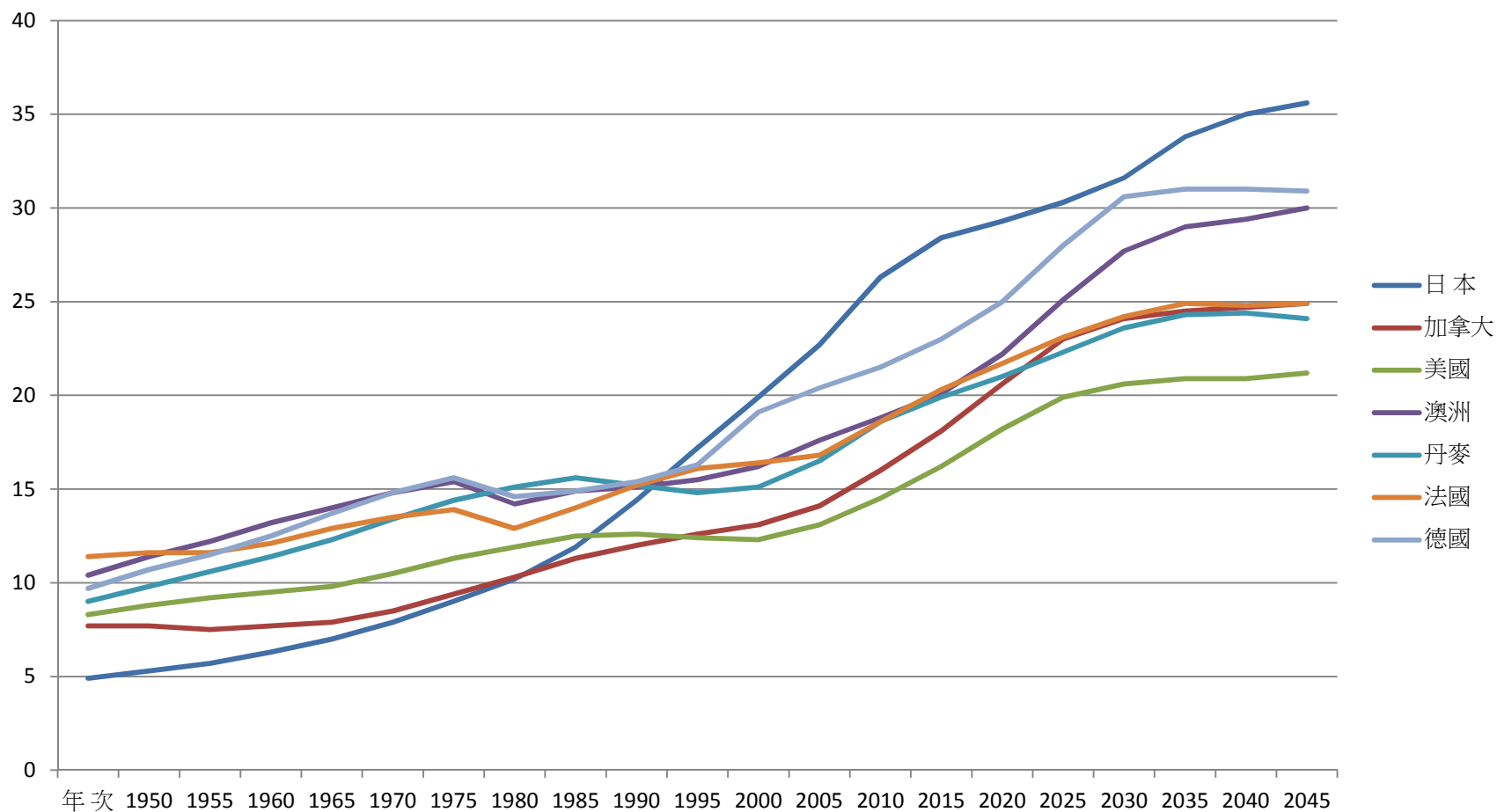


日本總勞動力人數

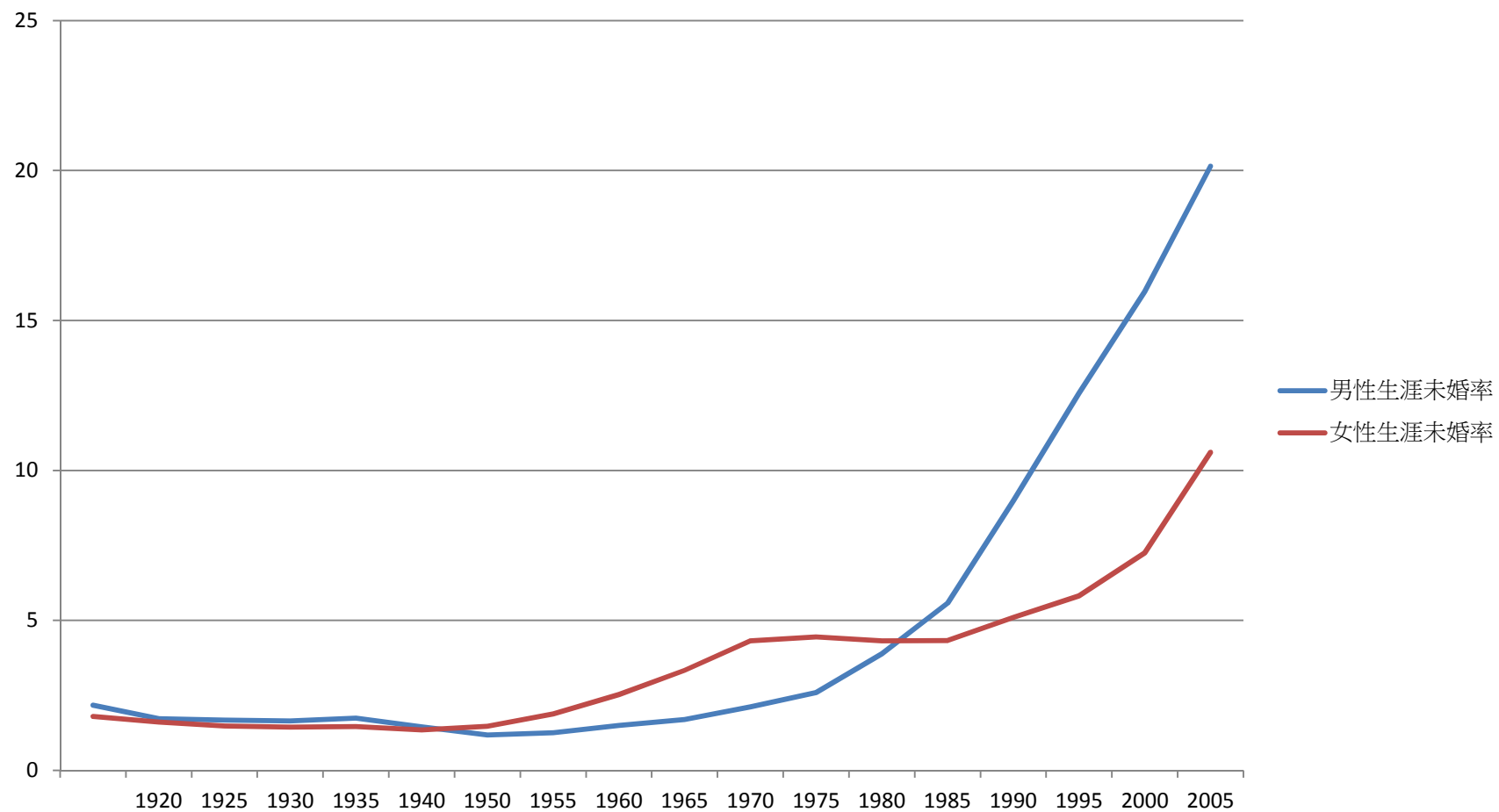
總勞動力



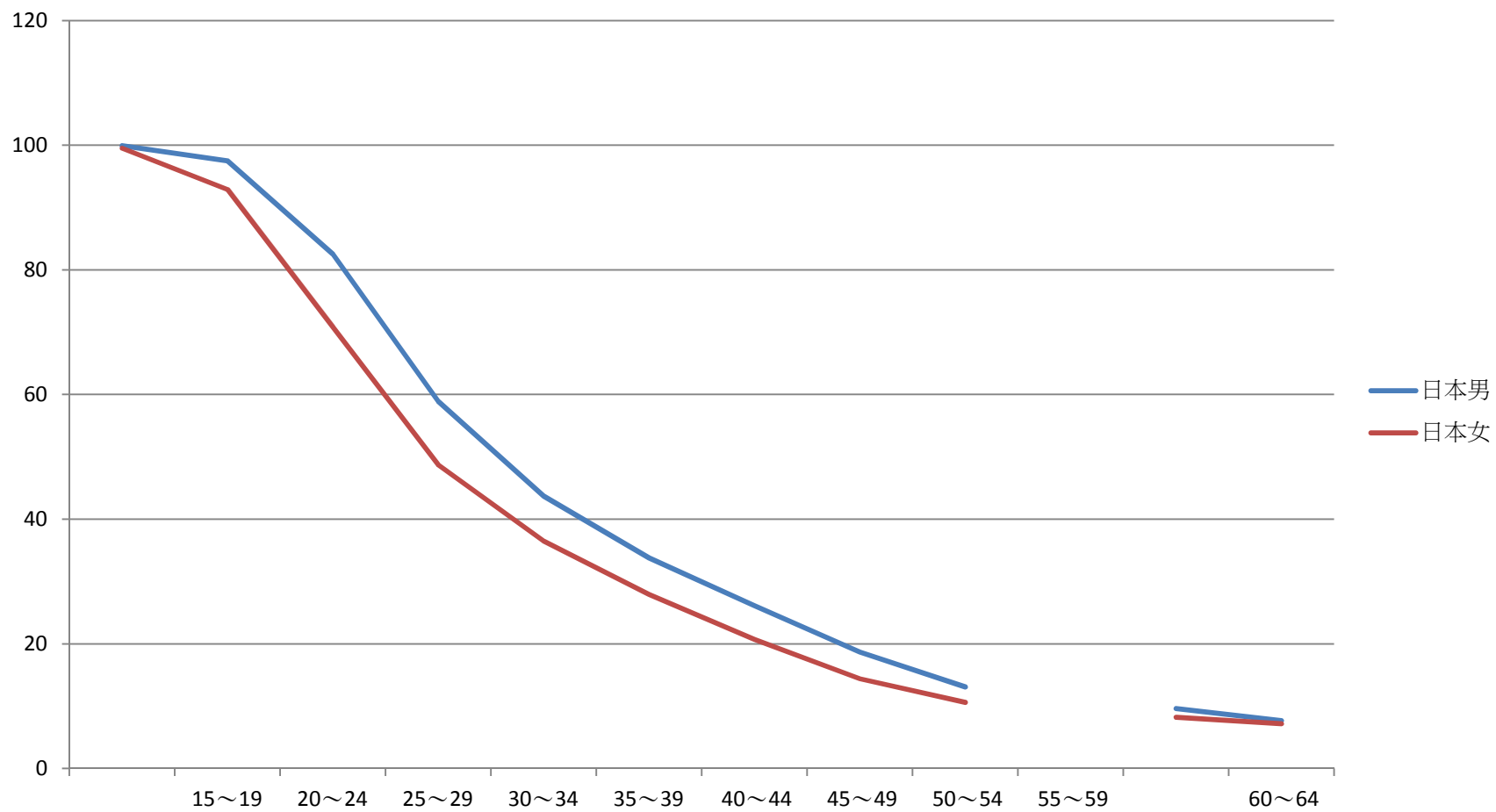
主要國家高齡化人口比率



日本生涯未婚率



2010年未婚率



日本少子化政策史

時間	政策&事件
1990	「1.57ショック」
1992	少子化一詞出現在國民生活白書
1994	、「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について」(エンゼルプラン)
1998	夢ある家庭づくりや子育てがてきる社会を築くために
1999	少子化対策推進関係閣僚会議 少子化対策推進基本方針 新エンゼルプラン
2003	「次世代育成支援対策推進法」
	「少子化社会対策基本法」
2004	「少子化社会対策大綱」
2006	「新しい少子化対策について」

日本少子化政策史

時間	政策&事件
2007	子どもと家族を応援する日本 仕事と生活調和憲章 社会保障審議会少子化対策特別部会
2008	新待機児童ゼロ作戦
2009	次世代育成支援対策推進法 修正 社会保障審議会少子化対策特別部会第1次報告
2010	子供手当
2013	「待機児童解消加速化プラン」

日本少子化政策史—典範轉移

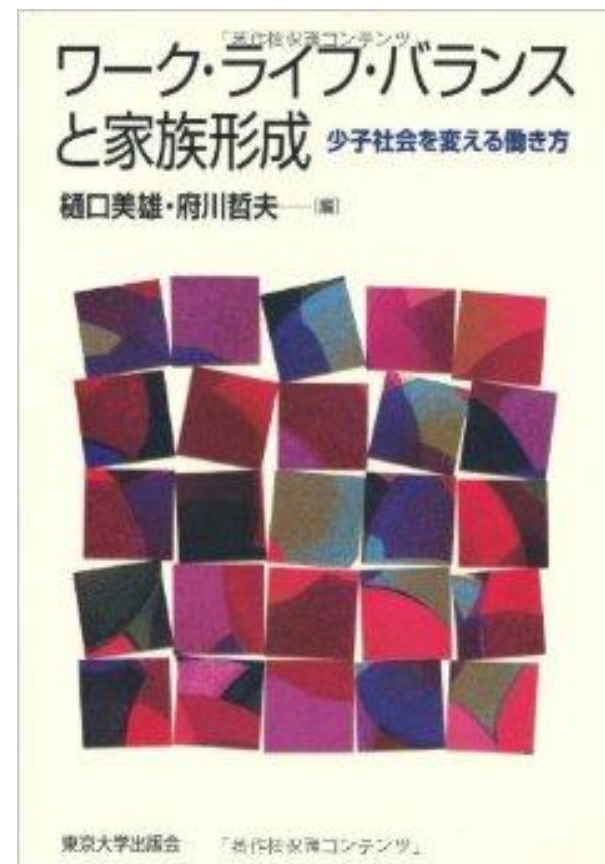
- 2007「子どもと家族を応援する日本」

政策重點

- a. 「働き方の見直しによる仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現」
- b. 「親の就労と子どもの育成の両立」
- c. 「家庭における子育て」
- 少子化問題從育兒問題轉變成為日本整體工作環境問題與性別平等問題

為什麼出現典範轉移

- 1. 先進國家間出現「婦女勞參率越高、生育率越高」的現象
- 2. 日本低生育率被歸咎於女性職場地位低落以及男性過度工作而無法協助育兒
- 「仕事と家族の役割の両立困難性」
- 3. 針對職場與家庭連結的**仕事と生活の調和** (ワーク ライフ バランス) 以及 **親の就労と子どもの育成の両立** 成為新的政策焦點



日本模式家庭與勞動力市場

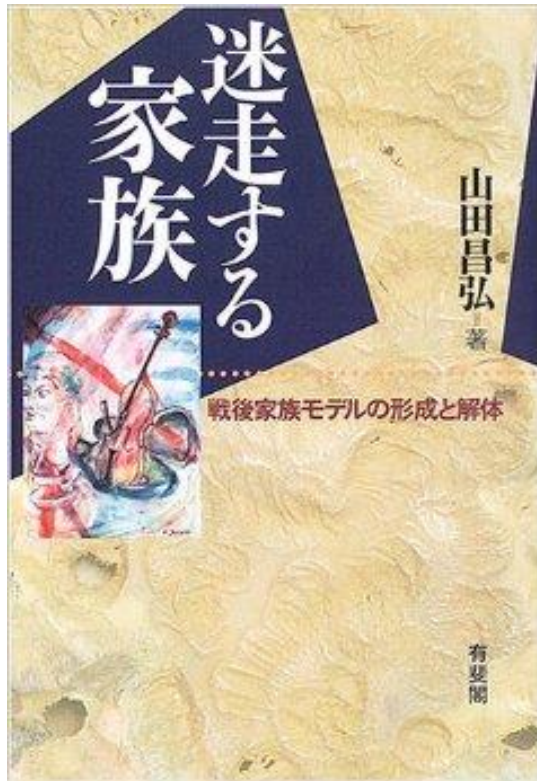
日本型雇用

- 1. 終身僱用
- 2. 要求雇員全力投入、超時工作
- 3. 福利體制以工作單位為主
- 4. 福利體制以預設性別分工為主

近代家族

- 1. 核心家庭
- 2. 丈夫全職工作
- 3. 妻子婚後或產後在家育兒
- 4. 小孩大後女性進入次級職場

家族為何迷走



- 1.職場日益不穩定
- 2.女性投入全職職場意願增強
- 3.離婚等家庭解組機率大增
- 4 終身未婚率以及單身率大幅提高

影響生育意願因素

政策因素

- 1.育嬰假
 - 2.托育設施的設置與普及
 - 3.就業穩定性
 - 4.工作時間的彈性與控制
-
- 生育意願最高的是受雇於穩定且提供育嬰假的女性

非政策因素

- 1.兩性家務與育兒分攤
- 2.社區與家庭的支援
- 3.母職的文化要求
- 4.

日本家庭變遷－實證結果

- 1. 婦女更傾向留在職場，脫離傳統性別角色價值
- 2. 兩性結婚與生育意願沒有特別顯著的降低
- 3. 離婚率升高
- 4. 性與婚姻脫鉤
- 5. 生育與婚姻未脫鉤—bridal pregnancy上升
- 6. 婚姻中男高女低的經濟地位期待仍強烈持續

政策效果的質疑

- 1. 強烈職場性別隔離，女性結婚或生育離職仍是很多機構潛規則
- 2. 福利與其他制度偏好男主外女主內模式
- 3. 強調全力投入的主要就業市場
- 4. 制度僵硬、鼓勵生育政策對就業婦女幫助不大
- 5. 托育設施不足，限制導致無法活用

近期危機—待機児童

- 已登記進入公立托育設施，卻因設施不足無法進入的兒童
- 2013年（平成25）4月、「待機児童解消加速化プラン」2013年、2014（平成26）年度を「緊急集中取組期間」とし、2年間で約20万人分の保育の受け皿の確保を目指し、子ども・
- 子育て支援新制度がスタート予定の2015年度
- から2017年度までを「取組加速期間」とし、保育ニーズのピークを迎える2017（平成29）年度末までに、潜在的な保育ニーズも含め、前述と合わせて約40万人分の保育の受け皿を確保し

小結

- 1. 日本長期對少子化束手無策導致成為先進國家中高齡化最嚴重區域
- 2. 少子化不僅牽動生育問題，也牽動更廣泛的工作與經濟制度安排
- 3. 安倍強調女性就業與少子化政策轉換有關，近年少子化有約略改善

台灣呢？

台灣總生育率

